地質学雑誌　第115巻　第2号（通巻1361号）付録　平成21年2月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.12 No.2 February 2009

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．

現金書留または郵便振替　00140－8－28067

40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円

第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円

第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円

第 45 号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）

第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価 1,900円，〒290円

第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia （IGCP350） Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価 2,100円，〒340円

第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価 2,500円，〒340円

第 50 号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 51 号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．

第 54 号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~（売り切れました）

第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．

第 58 号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）

大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格 200円（非会員300円）

大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ

箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円（**20部以上購入の場合割引あり**）

国立公園地質リーフレットシリーズ

1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円（**20部以上購入の場合割引あり**）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか

第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円

第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円

第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円

※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

日本地質学会*News*

Vol.12 No.2 February 2009

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６Ｆ
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

Contents

案内 ……2
第23回環境工学連合講演会/9th International Multidisciplinary Scientific Geo-Conference & EXPO SGEM2009

各賞助成 ……2
2009年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集

専門部会への登録をお願いします ……2

紹介 ……3
火星の生命と大地46億年　丸山茂徳ほか著（石渡　明）/地球46億年全史　リチャード・フォーティ著（狩野謙一） ……00

学協会・研究会報告 ……5
インド地質学会創立50周年記念式典と講演会参加報告（吉田　勝）

CALENDAR ……6

特集：地質学に基づいて，地質学を活かして ……7
－どんな職業につきたいですか－Vol. 7
地質学の力を石油開発業界で（中西健史）

支部コーナー ……8
関東支部【地質技師長が語る地質工学余話】～地質技術伝承講演会，地質見学会，第３回研究発表会「関東地方の地質」一般講演募集のお知らせ/近畿支部　都市問題研究シンポジウム「沖積平野の地盤・環境特性」/北海道支部　2009年度支部総会・個人講演会・日本地質学会長講演会のお知らせ

表紙写真

グレイシャーポイントから望むヨセミテ渓谷
View of Yosemite valley from the Glacier Point.

氏家恒太郎
（カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリプス海洋研究所）

院生コーナー ……10
三朝国際インターンプログラム2008参加報告（木村祐美子）

会員情報の変更がネットでOK！ ……11

学会記事 ……12
2008年度第６回理事会議事録
2008年度第７回理事会議事録
2008年度第８回理事会議事録
2008年度第９回理事会議事録

特別割引販売のお知らせ ……18
日本地質学会編集　日本地方地質誌　５．近畿地方

巻末　会員口座振替依頼書

事務局営業カレンダー　お休み　＊印は振替休日です

3月/March

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9*	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4月/April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6*	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

第23回環境工学連合講演会

総合テーマ「再生・再利用技術と循環型社会」

主催　日本学術会議土木工学・建築学委員会
共催　(社)日本水環境学会　ほか
期日　2009年４月16日（木）～17日（金）
場所　日本学術会議講堂
（東京都港区六本木７－22－34）

定　員　200名（定員に余裕がある場合は当日の参加も受け付けいたします）．
参加費　無料．講演論文集代（定価5,000円）は講演会会場にてお支払いいただきます．
参加申込　「第23回環境工学連合講演会参加申込み」と明記のうえ，氏名，勤務先，同所在地，所属学協会を記入して，**４月６日（月）までに郵送，FAX，E-mailにより，下記幹事学会宛にお申し込みください．**

申し込み先
(社)日本水環境学会　担当　山本
〒135-0006　東京都江東区常盤2-9-7
グリーンプラザ深川常盤201号
Tel. 03-3632-5351　Fax. 03-3632-5352
E-mail：yamamoto@jswe.or.jp
詳しくは，http://www.jswe.or.jp/

9th International Multidisciplinary Scientific Geo-Conference & EXPO SGEM2009

日程：2009年６月14日（日）～19日（金）
会場：Bulugaria Alnena Resort

締切：**Early Registration：2009年２月28日**
Abstract Submission：2009年３月31日

詳しくは，http://www.sgem.org/

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

2009年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集

１．三宅賞
対　象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者
表彰内容：賞状，副賞として賞牌および賞金30万円，毎年１件（１名）
２．奨励賞
対　象：2009年４月１日の時点において40才未満で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者
表彰内容：賞状および賞金10万円，毎年１～２件（１～２名）
３．応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に，略歴・推薦理由・研究業績などを記入し，主な論文10編程度（三宅賞），2編程度（奨励賞）を添えて，下記のあて先へ送付して下さい．

応募書類等は，三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます．
４．締切日：2009年８月31日
５．地球化学研究協会ホームページ：
http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/
６．応募先：
〒100-8212　東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部
公益信託グループ
（公益信託）地球化学研究基金　江川康治
７．問合せ：地球化学研究協会事務担当まで，電子メールでお願いします．
E-mail : eitaro1939@yahoo.co.jp　または
t-sagi@m3.gyao.ne.jp

専門部会への登録をお願いします．

現在，地質学会には下記の13の専門部会があります．その活動は部会によって様々ですが，年会の折にランチョンを開催したり，行事委員会に部会代表委員を出して年会プログラムの編成，部会として各賞の推薦なども行っています．また，各部会のメーリングリストでは，より専門性の高い議論や，シンポジウム・巡検案内などの様々な情報がタイムリーに交換されています．今後は，専門的な学術活動を担う組織としてさらなる充実が期待されています．

今までも会員の皆様へ部会登録をよびかけてきましたが，名簿やメーリングリストが整備されていないなどの状況があり，取り組みが遅れ気味になっておりました．このたび，News８月号やgeo-Flashでお知らせしたように，会員情報の変更がネットで可能になり，専門部会への登録情報の確認や更新もできるようになりました．

そこで，すでに部会の活動に参加されている方も含めて，改めて全ての会員の皆様が，専門部会の登録をホームページ上から行っていただくようお願いいたします．専門部会に所属するための条件は，特にありません．会員であれば専門によって希望する部会に，自由な意思で参加することができます．複数の部会（とりあえずは３つまで）に参加することも可能です．このシステムを利用することで，名簿などが整備され，メーリングリストの構築なども容易になります．

これを機会に会員の皆様が専門部会の活動に関心を持ち，積極的に参加されるようお願いいたします．

■　現在活動中の専門部会は以下の13です．
岩石部会/層序部会/第四紀地質部会/海洋地質部会/情報地質部会/構造地質部会/古生物部会/環境地質部会/堆積地質部会/現行地質過程部会/応用地質部会/火山部会/地域地質部会

登録は，学会HP＜http:www.geosociety.jp＞の会員ページから行っていただけます．
なお，会員ページへのログインには，会員番号からなるIDとパスワードが必要です・ログイン情報が不明の方は，学会事務局までお問い合わせ下さい．

（日本地質学会理事会　担当理事　**藤本光一郎**）

紹　介

「火星の生命と大地46億年」

丸山茂徳・Victor R. Baker・James M. Dohm

2008年12月10日発行，
講談社サイエンティフィク，256ページ，
定価1,800円＋税，ISBN978-4-06-154282-2

今日（１月17日）の朝刊に「火星でメタンガス噴出　NASA確認　生物や火山活動起源の可能性も」という記事が載っていた．地球からの望遠鏡観測で，2003年に火星の西半球で水蒸気とメタンの混じったガスが約２万トン噴出したことをNASAの研究チームが確認し，米誌サイエンスに発表したという．数日前に東京の本屋で平積みになっていたこの丸山氏の縦書きの新刊書を購入し，ちょうど読み終えたところでこの新聞記事を見たので，ワクワクする臨場感があった．

この本の前半は近未来（2030年）の有人火星探査の様子を描いた空想科学小説である．日本人地質学者ケンを含む６人のチーム（周回軌道の母船に１人残るので着陸は５人）が火星西半球のマリネリス渓谷中部のカンドール・カズマを基地として，着陸船ゴジラ号と探査車（ランドローバー）を駆使して，自然・人為両面の様々な困難に直面しながら火星各地の７箇所の調査を行う．西半球のタルシス高原の西端に位置するオリンポス火山は太陽系最大の火山であり，卓状火山の上に楯状火山が載る形をしている．まずこの火山の地熱地帯で微生物の存在を確認し，火星探査の最初の目的を達する．そして，露頭での地質調査と基地での簡易式年代測定によって卓状の部分は35億年前の枕状溶岩，楯状の頂上部分は１億年前までの溶岩からなることがわかり，過去の海洋の存在を証明する．東半球の北部は平坦な低地が続いているが，その中のクレーターの縁ではチャート・枕状溶岩からマントルかんらん岩（蛇紋岩）に至る海洋底オフィオライト層序を発見する．南半球は月に似たクレーターだらけの高地が広がるが，これはいくつかの大陸地殻が結合した「超大陸」であり，強い磁気異常を示す大陸の縫合線に沿ってオフィオライトや広域変成岩を発見する．そしてマリネリス渓谷東部の断崖の露頭では，予想に反して上位ほど年代が古くなる見事な付加体の断面を見出す（これには当然ケンが大活躍する）．２つの不整合を含むタルシス～マリネリス地域のカラーの空想的地質断面図も添付されている．この小説は，火星がもともと地球と同様のプレート運動をもつ水惑星だったが，惑星のサイズが小さいために冷却が速く，既にプレート運動は停止し，「火星は誕生後６億年の間に地球史全部を終了させた（p. 216）」（従って現在の火星は地球の未来像である）という仮説に基づいている．

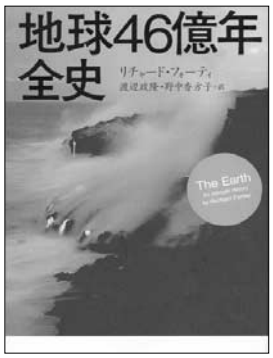
後半の第４章以後は火星の研究・探査の歴史，火星史９大事件，火星生命の進化，そして地球史７大事件や地球生命との関係について述べている．この中で特に火星「運河」の研究で名高いパーシバル・ローウェルの伝記（第４章）は興味深い．ローウェルは1855年に米国の豊かな織物商の家に生まれたが，1883～1893年の10年間は明治時代の日本に滞在し，ビジネスの傍ら能登半島や朝鮮半島の旅行記，日本の文明評論などを出版したという．ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）はローウェルが1888年に出版した「極東の魂」を読んで感動し，日本に渡ることを決意したという．ローウェルは38歳で帰国するまで天文学とは全く縁がなかったが，帰国直後に火星の運河説，火星人存在説と出会い，即座にローウェル天文台を設立して火星の観測に没頭した．ローウェルが作成した見事な火星運河の地図は，その後望遠鏡の高性能化とともに否定されてしまうが，ローウェル天文台は遠方の銀河の赤方偏移の発見，冥王星の発見（残念なことに2006年に惑星の仲間から外されてしまった）など重要な天文学的貢献を行い，運河と火星人の存在説はその後のH.G.ウェルズの小説「宇宙戦争」やそれをもとにしたO.ウェルズのラジオドラマなどを通じて米国社会全体に火星への興味を掻き立て，結果として最近の火星探査計画の実現にも大きく貢献した，と丸山氏は評価する．巨大科学を作り上げるには，魅力的な仮説が大きな力を発揮する．火星探査という巨大科学によって，大渓谷や河川・洪水の痕が発見され，ローウェルの「運河」は形を変えて再肯定されたという見方もできる．

残念ながらこの本はやや校正・校閲が不十分で，ヒマラヤの高さが約9000km（p. 29），アルギレとイシディスが逆（p. 48, 9-10行目），――億年前（p. 83: 数字を入れるのを忘れた？），（地）質調査（p. 122），その生息場所は・・・可能性が高い（p. 242, 14-16行目：文意不明）などの不備があり，付加体・オフィオライトなどの地質学用語や岩石名，「負のクラペイロン傾斜」（p. 190他）などの専門用語が詳しい説明なしに多用されているので，一般の読者には理解し難い部分があるのではないかと危惧される．縦書きに反応式を書いて左辺・右辺と説明するのも分かりにくい（p. 252-253）．本書で頻繁に出てくる「もたらせた」は，「もたらされた」または「もたらした」が正しいと思う．しかし，丸山氏の語調には読者を捉えて一気に読ませてしまう力があり，火星の地質・火星史だけではなく，日米の文明比較，科学者の精神の違いについても考えさせられる．惑星の地質は非常に学生の興味を引くテーマであり，私も授業に取り入れているので，この本は火星の地質を教材として総括的に料理するための１つのレシピとしても好適だと思う．私はかつて根上隕石の研究をしたことはあるものの，火星の研究をしたことはなく，主に日本や東北アジアの地域地質を研究してきたが，我々が丹波帯から報告した鉄ピクライト（Ichiyama et al. 2006; *Lithos*, **89**, 47-65）は火星隕石であるシャーゴッタイトに非常に類似していて，その成因には我々の鉄ピクライト成因説（リサイクルした鉄玄武岩・鉄斑れい岩などを含むマントルかんらん岩の高圧での部分溶融）が応用できるという論文も現れていて（Filiberto, 2008: *Icarus*, **197**, 52-59），火星の地質は案外身近な存在になりつつあると感じる．火星隕石はタルシス高原の巨大火山群のどれかの火山から来たと考えられており，もしかしたら，ケンはオリンポス火山で鉄ピクライト溶岩を発見するかもしれない．地質学会の会員諸氏に「火星の生命と大地46億年」の一読をお勧めする．

（石渡　明）

「地球46億年全史」

リチャード・フォーティ・著
渡辺政隆・野中香方子・訳



〈2009年１月５日発行　草思社，575ページ，
定価2800円＋税，ISBN978-4-7942-1690-8〉

「私はこの数年間，プレートテクトニクスがいかに地球に対する認識を変えたかについて，どのように書こうかと考え続けてきた．世界はあまりにも広大で変化にとんでいるため，一冊の本ですべてを伝えることはとてもできない．それでも地質はあらゆるものの下に存在する．風景の土台となり，農業の方法を指図し，村の特徴を決定する．いうなれば，ある種の集団無意識のようなものとなって，海洋や大陸の下から深く世界をコントロールしているのだ．」

本書の序文の冒頭に置かれたこの文章は，本書の性格をよく表現している．著者は元大英自然誌博物館主席研究員であり，現在はロンドン地質学会の会長を務めている，三葉虫を主研究テーマとした古生物学者である．この著者の前作「生命40億年全史」は，本書の筆頭訳者によって2003年に紹介され，地質・古生物関係者以外にも広く普及したようである．その“続編”として，「The EARTH: An Intimate History」のタイトルで本書の原書は2004年に刊行されている．サブタイトルにつけられた Intimate に重要な意味がありそうだ．

本書の日本語タイトルでは前作を引き継いで「全史」となっているが，実際には地球の全史を扱っているとは言い難い．プレートが形成される以前の地球創世記に関する記述がほとんどないからである．また，現在に向かって（あるいは時間を遡って）系統的に地球の歴史をまとめた本でもない．本書はプレートテクトニクスとその成り立ちを地質学的立場からまとめた本である．

本書の各章の多くは，著者が訪れたことのある各地の風景の紹介から始まり，文化と風景の基盤となる地質との係わりを紹介しながら，そこでの地質現象の特徴と，その研究史を述べていくという形式をとっている．そして，章を読み進めていくうちに，プレートテクトニクスの世界へと移行していくのである．この構成はプレートテクトニクスの“一般的・教科書的”な説明順序とは明らかに異なっている．

第１章「アップ・アンド・ダウン」は，ナポリ湾の風景の記述から始まる．そして古代ローマ文明からベスビオ火山を含む火山活動へと話は展開していく．ナポリを最初に記述したのは，チャールズ・ライエルが「地質学原理」で紹介して以来“地質学の聖地”となったからだそうだ．続いて地質学の成り立ちが，エドアルト・ジュースやアーサー・ホームズらの業績とともに紹介されていく．

第２章「島-天地創造の現場」では，観光地としてのハワイの景観から始まる．続いてここでの自然の主役である火山活動の特徴が紹介され，ホットスポットとプレート運動の関係に発展していく．プレートテクトニクスの体系が解説される前に，いきなりホットスポット仮説が出てくるのは珍しい構成だとは思うが，違和感は感じられない．

第３章「海と大陸」では海底地形から始まり，海洋地殻と大陸地殻の相違が語られる．続く第４章「アルプス」では，グラールス衝上断層および大規模ナップが累重した水平短縮構造とその研究史が紹介される．そして，水平短縮の原因である大陸間衝突テクトニクスに到達する．

第５章「プレート」でプレートテクトニクスが本格的に紹介されるが，その冒頭はアトランティス大陸の消滅である．この後でようやくヴェーゲナーの大陸移動説とその受容過程が記述され，さらに海洋底拡大説および古地磁気学による証明へと続く．収束境界としての海溝沈み込み帯の紹介は比較的簡単に終わる．著者としては，サブダクションよりもオブダクションによるオフィオライトすなわち海洋地殻とそれを覆う遠洋性堆積物の露出，および衝突テクトニクスのほうに重点が置かれている．続く第６章「古代の山脈」でも，オフィオライトと衝突テクトニクスが語られる．

このような調子で第12章「地球深部」までが展開され，世界各地を巡りながら話題は地球表層部から深部へと移行していく．最終章である第13章「地球周回の旅」で，ここまでに述べてきたことをまとめて，地球表層部の地質現象が概観される．

本書は地質学をベースとしたプレートテクトニクスとともに様々な文化的話題がとりあげられており，著者の視野の広さが感じられる大作である．筆者の文章力と構成の妙のせいか，この中で語られる様々な“寄り道”にも素直に入って行ける．このような他分野の話題を盛り込んだ大作を原書で読みこなすには多大の努力と時間を必要とすることから，今回の翻訳出版は大歓迎である．訳文は十分にこなれており，全体にすらすらと読みやすい．ただし，訳者は地質学の専門家ではなく，かつ専門家のチェックを受けていないためか，例えば第９章「断層線」には以下のような訳がある．

「ベースン・アンド・レンジを形成している普通の断層の真下には，しなやかに変形する部分に隣接して軽く傾斜した「分離帯」が存在することがわかった．この分離帯とは非常に深い部分にある崩れやすい平面で，そこではゆっくりと滑落が起きている．」

これはデタッチメントの説明であろうが，地質学的には適訳とは言い難い．また，この章には，「日本の直下では海洋の岩石が破壊されており，高速道路の崩壊はその結果であった．」という，プレート境界型地震と活断層による直下型地震（兵庫県南部地震）とを取り違えた記述がある．ただし，これは訳者の誤り（フォールト）ではないであろう．

構成のユニークさでわかるように，本書はプレートテクトニクスに関する総説でもなければ，教科書でもない．むしろ科学的な“読み物・啓蒙書”といったほうが良い．ただし，“読み物”とはいっても一般向けとは言い難く，読みこなせる読者は著者の前作に比べてより限定されてくるであろう．その理由は，地質学特有の多様な専門用語，たとえば種々の岩石名，が頻出することである．また，教科書で一般的に紹介される地磁気の極移動曲線，中央海嶺と地磁気テープレコーダーモデル，海底地形を用いた大陸間ジグソー絵合せ，トランスフォーム断層などについての判りやすい図がないのである．しかしながら，プレートテクトニクスを学んできた本学会の会員ならば，文章で語られる話題を追ううちに，かつて見てきたはずの図表類を自然と思い出すことができよう．これらの基本的な図を含めて図表類がきわめて少ないのが本書の特徴でもあるが，これは著者の意図かもしれない．索引は付けられているが，関連する文献が紹介されていないのが残念である．

本書は地質学徒にとってはとっつきやすい平易な本であり，これまで理解してきたプレートテクトニクスを違った観点から見直すことが出来る．とりわけ，プレートテクトニクスに支配された風土と文化との関係を強調している点が印象的である．

（狩野謙一）

学協会・研究会報告

インド地質学会創立50周年記念式典と講演会参加報告

吉田　勝（ゴンドワナ地質環境研究所）

昨年10月12日と13日にかけて，インド地質学会創立50周年記念式典と記念学術講演会が南インドのバンガロールで行われ，筆者は招待されて第一日目だけこれに参加した．その年の３月にデリー空港で偶然に旧知のH.K. Gupta教授に出会い，その折に12日の１日だけでよいから来いと誘われたのが参加のきっかけだった．実際のところ，私は10月14日からネパールヒマラヤの地学トレッキングの予定で，12日だけしか参加できない事情があった．

しかし，その後出発近くになってようやく判ったプログラムを見ると，会議は12日と13日の両日で，しかも，私の講演は13日になっていた．また，この時期はデリー周辺のフライトがなかなか取れず，結局８日に日本発，10日バンガロール着，13日早朝バンガロール発カトマンズ行きとなってしまった．出発１週間前にようやく，私の講演が12日に変更され，また，宿舎への早着OKとの連絡が入った．結局何とかなるのは，いつも通りのインド方式だ．

提供された宿舎は，バンガロール市域の北西部にあるインド科学研究所（IISc）キャンパスの北西隅にある国立先端科学研究所（NIAS）のゲストハウスであった．10日夜にゲストハウスに着いたら，同宿のGupta夫妻や旧知のインド人らに迎えられた．広く，綺麗で施設も整っており，ガードや雇用人たちもしっかりしている．また，カルカッタのS. SenguptaやD.Mukhopahdyay，ハイデラバードのT.R.K. ChettyやS.K. Acharyyaなど，なつかしい友人たちが同宿していて大変に居心地よい滞在だった．翌11日は，招待者らには市内観光ツアーが提供されていたが，バンガロールは始めてではなかったし，講演準備もあって，参加しなかった．

インド地質学会は1958年５月にバンガロールで設立総会を行い，以来50年間にわたり，インドの地球科学の全分野を網羅して，研究の最前線を担ってきた．インドの地質学界の歴史は古く，地質調査所によって1800年代半ばから多くの優れた地質報告がある．地質学会がその後約100年経ってようやく創設されたのは，いろいろな理由があったのだろう．現在正会員は約2500人，1977年に創刊された学会誌Journal of Geological Society of Indiaは，国内外の会員に2000部，研究機関等に300部が配布されているという．発行以来毎月１日の発行が堅持され，SCIに登録され，世界中で広く引用されてきた．2009年１月からはスプリンガーとの共同発行になり，電子版が世界中に配布されるようになるという．

記念事業計画は2005年１月に始まり，事業の一環として，まず2007年４月から2009年５月にかけて，各地の13の研究機関で（サテライト）シンポジウムが行われ，あるいは予定された．また，学会誌は2008年度の各号に特別招待レビュー論文を掲載した．上記シンポジウムの論文集も記念事業の一部として次々と発行されつつあり，式典当日までに７冊が発行されていた．

10月11日夜は，市の中心部にあるカピトールホテルでアイスブレーカーパーティーがあった．ローカル色豊かな音楽やダンスがあったが，ブレークするアイスも割るべきリキュールも無く，大変におとなしい会だった．

10月12日，本式典と講演会がインド科学研究所キャンパスの南端にある国立科学セミナー会館（NSSC）で行われた．参会者は招待された学会員や招待講演者ら合計502人と，インド各地の学校生徒32人の合計534人だった．外国人参加者は特別招待の12人（米国：４，南ア：２，フランス２，日本：１，ドイツ：１，英国：１，ネパール：１）だけだったようである．

上から写真１　式典はガネッシュへの祈りの演奏で始まった．写真２　講演の後に壇上でメダルを受けるS.K. Acharyya教授．写真３　地元のダンスチームを紹介するGupta会長

式典はインド古式の笛と太鼓によるガネッシュ神への祈りの演奏で始まった（写真１）．長い平坦な音楽を参会者達は共に祈ったのだろうか，全員がじっと静聴し，終りには盛大な拍手で演奏者らを讃えた．続いて地質学会長のH.K. Gupta教授（前会長のB.P. Radhakrishna教授はこの年の初めに引退した）による開会の挨拶のあと，学会創立メンバーのY.N. Rama RaoとB.P. Radhakrishna（代理者が出席）の両氏に謝辞と祝福が述べられた．引き続いてインド各地の大学，研究所の代表者ら16人による祝辞があり，その後H.K. GuptaとFarecduddin編集のRecent Advances in Earth System Scienceなどの記念出版５冊と（サテライト）シンポジウム論文集７冊がそれぞれの編集者らによって紹介され，会場の拍手を受けた．

ティーブレークのあと，同じ会場で学術講演会“Recent Trends in Earth Sciences”となった．国内外から招待された30人の著名科学者による特別講演が，６つの分科会に分けて次々と行われた．学会によると，30の特別講演は以下の４分野に分類されている．Natural Hazards and Environment Related Topics（７講演），Geodynamics, Crustal Evolution and Related Topics（19講演），Moon Rock Simulants（１講演），Hydrocarbon Exploration and Global Petroleum Workforce Needs（１講演）．講演は6分科会でつぎつぎに行われたが，分科会と分野の整合性はあまりなかった．これは招待講演者らの都合が優先されたためであろう．

第１分科会ではS.K. TandonとA. Cazenaveの座長で，A. SahniによるA Brief History of Surface Events During the Drifting and Collisional Phases of the Indian Plate”のほかG. Marsily，S.K. Acharyya，W. Mooney，P.M. Tejale，H.K. Guptaらによる５講演があった．第２分科ではM. RamakrishnanとW. Ederの座長で，J.C. Carterによる“Lunar Regolith and Low-Ti Mare Simulants JSC-1 and JSC-1A”のほか，M. Yoshida & B.N. Upreti，S.K. Tandon，A. Cazenave，D. Mukhopadhyay，J. Curray & R. Allen, R. Singha, V. Prasadらによる７講演があった．第３分科会ではR. ShankarとJ. Curryの座長で，S. GadgilによるVagaries of the Indian Summer Monsoonのほか，M. Talwani, R.P. Viljoen，R.S. Sharmaらによる３講演があった．

各講演者には講演後，学会への貢献に対する感謝状とメダルが贈呈された（写真２）．12日夜にはディナーパーティーが再びカピトールホテルであった．参会者は地元の有名

なダンスグループの美麗な踊りと（写真３）美味しい南インド料理を，インドワインやインドビールと共に大いに楽しんだ．この後，私は翌朝早くネパールに向けて出発したので，13日の会には参加できなかったが，学会の記録を参考にして簡単に記述する．

13日は第４分科会から始まった．R.S. SharmaとR. Kindの座長により，M. Ramakrishnanによる“Tectonics and Crustal Evolution of the Dharwar Craton”のほか，H. Darman，R. Kind，S.M. Naqvi，W. Eder，T.M. Mahadevanらによる５講演があった．第５分科会はA. SahniとJ. Carterの座長で，R. SinghによるCitizen Movement for Water Resource Managementのほか，R. Shankar，M.A. Mamtani，T. Meloth，A.D. Singh，S. Bajpai，K. Pandeらによる６講演があった．第6分科会ではS.K. AcharyyaとM. Talwaniの座長で，T.K. Biswal & B. De VaeleによるTectonics of India and Gondwanaland: Inferences from SHRIMP Studiesのほか，R. Nagendra，D.A. Sant，S.K. Parchaらによる３講演があった．

最後にInteractions and Concludingセッションがあり，H.K. Gupta，M. RamakrishnanとW. Mooneyの座長で，全体の講演に対する質問，意見，議論が行われた．質疑では学校生徒たちが気後れ無く天真爛漫に質問を出し，また，それに対して座長や講演者らが真正面からまじめに答えていたようである．座長コメントと参会者意見はかなり活発で，座長らによる分科会の総括と，各講演についての講評のあと，参会者らから地球科学との関連性からの宇宙科学への関心，地質・考古学的重要地域の世界遺産登録，プラナベーズンの再研究等々の必要性が指適された．閉会式ではGupta会長による簡単な謝辞と，学会としての将来の抱負などが述べられた．全体を振り返って見て，インドの香り高い，よくまとまった会であった．

CALENDAR

2009.3～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2009年

3月　March

○国際シンポジウム　1st International Geoscience Symposium
“Precambrian World 2009”: Bridging Precambrian and Modern Geosciences
３月６日（金）～８日（日）
場所：九州大学西新プラザ・いのちのたび博物館（北九州自然史博物館）
http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/PW2009

○都市問題研究シンポジウム「沖積平野の地盤・環境特性」
３月７日（土）
会場：大阪市立大学文化交流センター
詳しくは、日本地質学会近畿支部のサイトへ
http://kinki.geosociety.jp/

☆構造地質部会2008年度例会
３月14日（土）～16日（月）
普及講演　会場：長岡市中央公民館大ホール
例会会場：長岡市民営国民宿舎悠久山湯元館
http://struct.geosociety.jp/struct-index.html

○日本堆積学会2009年京都枚方大会
３月27日（金）～30日（月）
会場：大阪工業大学情報科学部枚方キャンパス
http://sediment.jp/

○日本地理学会2009年春季学術大会
３月28日（土）～30日（月）
会場：帝京大学（八王子市大塚359）
http://www.ajg.or.jp/

☆日本地質学会男女共同参画委員会主催　金沢ワークショップ
「燃える温泉と地滑りのメッカ－地質学と町おこし－」
３月29日（日）～30日（月）
場所：金沢&石川県能登半島周辺
参加申込・問い合わせ先
堀　利栄　shori@sci.ehime-u.ac.jp

5月　May

○日本地球惑星科学連合2009年大会
５月16日（土）～21日（木）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

○日本地下水学会50周年記念講演会
地球の未来、地下水の役割
５月29日（金）
場所：日本科学未来館みらいCANホール（東京都江東区）
http://jagh.jp/

○日本地下水学会2009年春季講演会
５月30日（土）（記念講演会・式典の翌日）
場所：東京大学駒場キャンパス
http://jagh.jp/

☆北海道支部総会・個人講演会
５月30日（土）13：30～（予定）
場所：北海道大学理学部7号館（予定）
講演申込締切：４月３日（金）
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

6月　June

☆関東支部総会・地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・研究発表会
６月６日（土）
会場：国立科学博物館新宿分館（予定）
研究発表会講演申込締切：４月６日（月）
http://kanto.geosociety.jp/

☆2009年中部支部年会のお知らせ
６月13日（土）総会・シンポジウム・懇親会
６月14日（日）地質巡検
会場：山梨大学教育人間科学部講義棟
シンポジウム：「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」

○GEOINFORUM-2009
第20回日本情報地質学会総会・講演会
６月25日（木）～26日（金）
会場：沖縄県青年会館
http://www.jsgi.org/

7月　July

○第46回アイソトープ・放射線研究発表会
７月１日（水）～３日（金）
会場：日本科学未来館（東京都江東区）
http://www.jrias.or.jp/

8月　August

○ZMPC2009国際会議
International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009
８月３日（月）～８月７日（金）
会場：早稲田大学（東京都新宿区）
http://www.zmpc.org/

9月　September

☆日本地質学会第116年学術大会
９月４日（金）～６日（日）
会場：岡山理科大学ほか
http://geosociety.jp

○第3回国際地学オリンピック台湾大会（国際大会）
９月14日～22日（予定）
場所：台湾
http://www.jeso.jp/

特集：地質学に基づいて，地質学を活かして
ーどんな職業につきたいですかー　Vol.7

日本地質学会では就職支援ワーキンググループを作り，さまざまな就職支援の道を探り，推進していこうと考え，それぞれの分野で生き生きと活躍していらっしゃる先輩の方々をご紹介しています．（日本地質学会就職支援ワーキンググループ）

★地質学の力を石油開発業界で

中西健史（国際石油開発帝石株式会社）

あなたはどのようにしてこの職につきましたか．

今から18年前，堆積学を学んでいた修士１年生の私は卒論の内容を発表するために「つくば地層の会」に参加していました．そこで，当時石油公団に出向されていた荒戸裕之さん（現在国際石油開発帝石株式会社）が地震探鉱データを広げ，地下のダイナミックな地質構造発達史・シークエンス層序・油田が発見されるポテンシャルについて報告されていたのを見て，「こういう世界もあるんだ」とワクワクしたことを覚えています．その後，堆積学が実は石油を見つけるために業界の中で飛躍的に発展していることを知り，自分でも石油を見つけることができるのではとの思いを胸に，石油公団の門をたたきました．

１日がどのように過ぎますか．

石油公団に入団してから常に新しいことを学びそれを実践する毎日で，現在在籍している国際石油開発帝石株式会社でもそれは続いています．日々アップデートされる坑井データや地震探鉱データを解析し，地質学的・地球物理学的アイデアをもって，油田がどこにあるか思い巡らせます．これまでいくつかの油ガス田発見に関わることができましたが，油田を発見することは容易では無く，例えば堆積学的検討のみ行っても，“儲かる石油”は見つかりません．そこには，地球物理，構造地質，有機地質等，多岐にわたる地質分野のみならず，油層工学，坑井掘削技術，施設工学から，経済性，契約，法制といった分野まで係わってきます．しかも，私がこの業界で働いてきた間にも石油開発の対象となる油層の物理的・地勢的条件はどんどん移り変わっており，その変化に対応した新しい技術の導入が必要となります．社内では上に挙げた事柄を各専門家からなるチームで検討しますが，お互いが目をつけるべき点を理解し合うこと無しにその事業が実を結ぶことはありません．そういった意味で自分の専門以外の分野についても常にキャッチアップしていくことが必要となります．

また，石油開発事業を大きく特徴付けることとして「様々な不確実な事柄」がある中で事業は進められているということがあります．いくら技術を投入しても現時点では明確な答えを見出せない状況の中で投資を決定し，事業からの利益を引き出さなければなりません．こんなところから，石油開発事業の「不確実性とリスクマネージメント」の考え方が出てきます．石油公団時代に留学させていただき，石油探鉱における不確実性とリスクマネージメントを学びました．このアイデアをもって現在国際石油開発帝石株式会社で，如何にして効率的に事業をすすめ利益をあげていくか，思案に暮れる日々を送っています．

このようになかなか石油というものは見つかりません．しかし，それゆえ自ら立てた仮説が正しく，油田が発見された時の醍醐味は他の業種では味わえないものだと思います．

これから就職するとしたら何をするべきでしょう．

石油開発事業の不確実性評価などやっていますと，ますます

地質学的アイデアの重要性に気付かされます．限られた情報から地下地質の空間的広がりをイメージできるか否か．これが，大規模な油田を発見し，事業を成功させる大きな鍵となっています．他分野の人を物理探査技術者や各種エンジニアになるようトレーニングすることは可能であるけれども，地質屋にすることはできないとする開発系人材コンサルタントの分析もあるくらい，個人が持つ地質学的センスへの期待は大きいものです．将来石油開発業界に就職したいと考えている地質学専攻の学生さんは，各専門分野のスキルを研ぎ澄ますのと同時に，是非フィールドに出て地質マッピングを行う技術を身につけてください．そこで培われた地質に対するスケール感や時空間的変化をイメージするセンスは石油開発で大きな威力を発揮します．

学部（修士，博士，PD）から入れますか．

弊社のここ数年の地質専門家の採用状況を見てみますと，修士新卒，次いで学部新卒を採用しています．また，専門性をみて博士号取得者（予定者を含む）も採用しています．大学で育んだ豊かな地質学的センスの持ち主に石油開発業界でその力を発揮していただくことを期待しています．

就職してから多様な道がありましたら，ご紹介下さい．

これまで紹介しましたように，石油開発業界に就職して地質のことだけやることはむしろ稀です．油田探鉱開発事業の中で技術的側面のみならず，契約・経済性・法制等を見ていくといったこともあります．そういう意味で地質技術者に期待されるスキルは非常に多様です．また，業界のトレンドをみてみますと，化石燃料を世の中に供給している企業として，CO_2排出削減や新エネルギーの開発等，環境問題に取り組んでいくことは石油開発会社の使命となってきており，その中での地質技術者のニーズは更に高まってきています．地質学を専攻している学生のみなさん，持てる力を是非石油開発業界で発揮していただければと思います．

☆関東支部 お知らせ

【地質技師長が語る地質工学余話】～地質技術伝承講演会

昨年2008年４月から６月にかけて３回の講演会を催し，ご好評をいただきましたが，今年も同じ４月から６月にかけて，国立科学博物館にて計３回実施することとなりました．

近年，プレート論で代表されるように日本のアカデミズム地質学は大きな進展をとげてまいりましたが，同時に，わが国の社会基盤整備の状況を見ると，応用地質学もまたこの分野において大きな役割を果たし，アカデミズム地質学に勝るとも劣らない進歩があったと思っています．

いわゆる2007年問題を迎えて，これら日本の応用地質技術を支えた団塊の世代の方々が次々と一線を退かれています．そこで，関東支部ではこれら団塊世代の会員の方々から地質技術のノウハウを伝授していただくための企画として，下記のような一般向けの講演会を行います．

会員の皆さまにおかれましては，会員外の方々にもお声掛けいただき，ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます．

日程：

第４回目　４月11日（土）14：00～16：00
国立科学博物館日本館大会議室
テーマ「農業の有する多面的機能と地質技術者の役割（仮）」
講演者　山本昭夫

第５回目　５月10日（日）（地質の日）14：00～16：00
国立科学博物館日本館大会議室

第６回目　６月６日（土）10：00～12：00
国立科学博物館新宿分館

（なお，６月６日は地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム，研究発表会も同時開催されます．）

参加費：無料（日本館での開催の場合は別途入館料がかかります）
参加申込：ジオスクーリングネットまたはFAX（学会事務局）または担当幹事宛にメールで
共催予定：独立行政法人 国立科学博物館
協賛予定：(社)全国地質調査業協会連合会 関東地質調査業協会

連絡先：
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６Ｆ
日本地質学会事務局内　関東支部
電話：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
担当幹事　緒方信一（中央開発(株)）
E-mail：ogata@ckcnet.co.jp
件名に「地質伝承申し込み」を明記して下さい．

地質見学会のお知らせ

関東支部では，「地質の日」（毎年５月10日）記念行事として，会員と一般市民を対象とした地質見学会を行います．この見学会は，地質学・地学の普及を目的とするとともに，ジオパークにおけるジオツアーの実験的試みとして行うものです．詳細は次号にてお知らせいたします．

日時　**2009年５月９日（土）**
９：30　JR常磐線勝田駅集合，16：00　鹿島臨海鉄道大洗駅解散
費用　大人　3,000円程度（貸切バス代，保険代，資料代含む）
中学生以下　1,500円程度（小学生以下の参加は保護者同伴でお願いいたします．）
昼食は各自持参
見学場所　茨城県平磯海岸（茨城県ひたちなか市）
平磯海岸周辺では白亜紀に形成した「那珂湊層群」をみることができます．ここでは「異常巻きアンモナイト」や「翼竜」の化石が産出しました．見学会当日は「大潮」（予定）です．アンモナイトが産出した露頭が広く露出し，老若男女だれもが地層観察できます．平磯海岸の詳しい地質情報につきましては，茨城大学地質情報活用プロジェクトのホームページ（http://geotourde.gozaru.jp/）をご覧下さい．
募集人員　40名
案内人　茨城大学地質情報活用プロジェクトメンバー（茨城大学理学部学生）および茨城大学理学部教員
応募方法　下記連絡先にメールまたは往復ハガキで．
○メールの場合は件名に「地質見学会申し込み」を明記して下さい．
○日本地質学会会員の有無に関わらず，誰でも申し込みできます．
○申し込みには，住所，氏名，所属または学校名，年齢，性別，連絡先を明記して下さい．
○応募が募集人員を超えた場合は，抽選により参加者を決定します．
○申込締切：**2009年４月10日（金）**（ハガキの場合は当日消印有効）
申し込み先・連絡先　地質見学会担当幹事　本田尚正
〒310-5812　茨城県水戸市文京2-1-1
茨城大学理学部地球環境科学コース
TEL＆FAX　029（228）8396
E-mail　nhonda@mx.ibaraki.ac.jp

第３回研究発表会「関東地方の地質」一般講演募集のお知らせ

日本地質学会関東支部では，平成21年６月６日（土）に関東地方の地質研究の発展および若手への研究発表の場の提供を目的とした標記研究発表会を開催いたします．昨年，そして一昨年と開催した同テーマ研究発表会は，多くの方のご参加・ご発表によりお陰様でたいへん盛況のうちに終えることができました．そして今回，第3回研究発表会開催の運びとなりました．本研究発表会における一般講演を募集いたします．なお，今回はシンポジウム同時開催のため，一般講演はポスター発表のみとなりますこと，ご了承ください．

この研究発表会では，特に学生・若手研究者・若手技術者への発表の場の提供を考えています．この場合，学会員の有無を問いません．卒論・修論の内容や土木地質の調査結果などを是非この機会に発表し，意見交換や交流の場としてはいかがでしょうか．もちろんベテラン研究者・技術者の方の発表も歓迎いたします．研究発表会では関東地方の地域地質研究の発表を歓迎しますが，地質学に広く関係する内容ならばそれ以外のテーマも受け付けます．

当日は地質技術伝承講演会，地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム，支部総会も同時開催されます．

日時：**2009年６月６日（土）**13：00～17：00
会場：国立科学博物館　新宿分館（予定）

講演申込要領
講演内容：関東地方の地質研究を歓迎しますが，地質学に関係する内容ならば全て可．
申込資格：学会員（連名の場合はどなたか一人が学会員ならば可），

ただし学生および若手研究者・技術者（35歳未満）は学会員でなくとも可．
参加・発表料：無料
講演方法：今回はポスターのみとさせていただきます．
講演申込方法：発表者（氏名・所属・責任者連絡先E-mail），発表タイトルを下記担当幹事宛に電子メールかファックスでお知らせください．
担当幹事：中澤（産総研），E-mail:t-nakazawa@aist.go.jp，ファックス029-861-3591
講演申込締め切り：**2009年4月6日（月）**
講演要旨締め切り：**2009年5月8日（金）**，様式は後日お知らせします．
上記案内は関東支部ホームページhttp://kanto.geosociety.jp/ にも掲載されます．ご参照ください．

☆近畿支部 お知らせ

都市問題研究シンポジウム「沖積平野の地盤・環境特性」

主催：大阪市立大学複合先端研究機構・大阪市立大学都市研究プラザ
後援：日本地質学会近畿支部・日本応用地質学会関西支部

都市化した大阪平野の地盤については，地下水過剰揚水に関わる地盤沈下をはじめ，地震災害，地下水汚染・土壌汚染など各種の問題が生じてきている．これらの地盤環境の障害は，大阪平野を構成する沖積層をはじめとする厚い未固結堆積層とそこに介在する地下水の諸特性が一つの背景となっている．これまで大阪平野では，全国に先駆けて地盤図や地盤情報データベースが集約され，多くの情報が集積してきた地域でもある．大阪市立大学では，これらの情報を活かしながら，現在生じつつあるような多様な地盤問題に対して基盤となる基礎的資料を「都市問題研究：都市の地盤環境に関わる基盤的研究－大阪平野表層部の地盤環境特性の解明－」を通じて検討してきた．このシンポジウムでは，その成果の一部を報告するとともに，各地の都市の発達する平野について話題提供をお願いし，大阪平野の地盤特性との比較を行う．

月日：**2009年3月7日（土）**10：00～17：30
会場：大阪市立大学文化交流センター大ホール（大阪駅前第2ビル6階）
参加費：無料
第1部：大阪平野地下の地盤環境評価
微化石からみた大阪平野地下沖積層の堆積環境変化：辻本　彰（大阪市立大学大学院理学研究科）
沖積層にみる化石燃料燃焼の変遷（仮）：村上晶子（大阪市立大学大学院理学研究科）
沖積層の重金属含有特性：加田平賢史（大阪市立環境科学研究所）森脇　洋（信州大学繊維学部）
大阪平野浅層部の地下水の水質からみた汚染の自然浄化過程：益田晴恵（大阪市立大学大学院理学研究科）
平野表層の人工構造物による地下水障害の評価（仮）：澤田有希（大阪市立大学大学院理学研究科）
深層地下水帯水層の評価（仮）：森野祐助（大阪市立大学大学院理学研究科）
第2部：沖積層形成過程と地盤特性（大阪平野と各地の沖積層の比較）
大阪平野沖積層の堆積環境と物理特性：三田村宗樹（大阪市立大学大学院理学研究科）
大阪平野沖積層の圧密特性の分布評価（仮）：大島昭彦（大阪市立大学大学院工学研究科）
東京低地付近の沖積層の堆積環境と土質特性：木村克己（産業技術総合研究所）
動土質から見た関東平野沖積地盤の特性：小田匡寛（埼玉大学理工学研究科）
筑紫平野沖積層の堆積環境と形成過程：下山正一（九州大学大学院理学研究院）
有明海北西岸低平地域における完新統の地域的・深さ的性質に関する一考察：日野剛徳（佐賀大学　低平地研究センター）
新潟平野の沖積層の堆積システムと層相分布の特徴（仮）：卜部厚志（新潟大学災害復興科学センター）
北海道内の沖積層分布とその地盤特性（仮）：岡　孝雄（北海道立地質研究所）

問い合わせ先：
日本地質学会近畿支部
三田村宗樹（大阪市立大学）
TEL：06-6605-2592　FAX：06-6605-2522
E-mail：mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp
http://kinki.geosociety.jp/

☆北海道支部 お知らせ

2009年度支部総会・個人講演会・日本地質学会長講演会のお知らせ

日程：**2009年5月30日（土）**13：30～（予定）
場所：北海道大学理学部7号館7-310号室（予定）

・個人講演（質疑応答を含め1件あたり15分程度）
申込締切：2009年4月3日（金）
タイトル，発表者名，所属，連絡先を明記し，下記まで申込ください．

〒060-0819　札幌市北区北19条西12丁目　北海道立地質研究所内
日本地質学会北海道支部事務局（担当：高清水まで）
TEL/FAX：011-747-2475/737-9071
E-Mail：yasu@gsh.pref.hokkaido.jp

・日本地質学会長講演会「オマーンから日高ーマントルと海洋地殻を見るー」宮下純夫会長による講演を予定

・懇親会
日本地質学会長を囲んでの懇親会を計画しております．
お手数ですが，ご希望の方は3月末日までに，上記の個人講演申込先に懇親会参加希望の旨を，お知らせ下さい．
参加費：5000円以内の予定．詳細が決まり次第お知らせします．

・その他
会場・時間等の変更の可能性があります．北海道支部HP等＜http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html＞でご確認ください．

三朝国際インターンプログラム2008参加報告

木村祐美子
（関西学院大学大学院理工学研究科M1）

2008年７月１日から８月８日までの約６週間，鳥取県東伯郡三朝町にある岡山大学地球物質科学研究センターにおいて，「三朝国際インターンプログラム（MISIP）」が開催されました．このプログラムは国際的な研究・教育の推進を目的に，国内外からの学部３・４年生及び修士課程学生を対象として，毎年開催されているものです．私は2008年の夏，MISIPに参加する機会を得ました．今回この場を借りて，三朝での６週間の生活をご紹介したいと思います．

プログラムの概要

書類選考によって選ばれた10名程度の参加者は，同センター教員指導の研究プロジェクトに携わり，その成果を英語で発表します．期間中は，センター付属の宿泊所を使用し，他の参加者と寝食を共にします．従って，このプログラムを通じて，高度な実験・分析技術を用いた最先端研究の一端に触れられるのみならず，世界中の同年代同分野の研究者と交流することが出来ます．

2008年のMISIP参加者は６カ国11名（男性４名，女性７名）で，その内訳はアメリカ３名，カナダ１名，ドイツ３名，フランス１名，ガーナ１名，日本２名という，バラエティに富んだメンバーでした．もちろん，実験の説明や，セミナー，ディスカッションなどの研究活動中をはじめ，日常生活や課外活動に至るまで全てのコミュニケーションは英語です．

研究活動

研究テーマは大きく分けて以下の３つがありました．

1．地球惑星化学・年代学（ICP-MS，TIMS，SIMS，XRF等を用いた地球惑星物質の元素・同位体測定等）
2．高圧実験科学・鉱物物理学（マルチアンビル装置を用いた高圧実験，相平衡，電気伝導度，弾性，塑性的性質測定等）
3．結晶化学・マグマ学（DAC，マルチアンビル装置，ガス圧装置等を用いた高圧実験，NMR，Raman，IR分光法測定，MD計算，第一原理計算等）

私は同センターのPMLグループ指導のマルチ年代学のプロジェクト「MULTICHRON」を選択し，４名のインターン学生と共同で高圧変成岩の年代学に取り組みました．PMLグループでは他に２名の学生が隕石試料の地球惑星化学のプロジェクトに取り組み，高圧グループとマグマグループでは各学生がそれぞれ個別のプロジェクトに参加しました．

私たちの「MULTICHRON」では飛騨山地のエクロジャイトの試料２つについて，光学顕微鏡，SEM，TIMS，EPMA，SIMS，ICPMS，XRFによる徹底した岩石記載にもとづいて，１）ざくろ石・藍閃石・オンファス輝石・緑れん石・白雲母のSm-Nd，Rb-Sr鉱物アイソクロン年代測定（元素のカラム分離・TIMS分析），２）白雲母（フェンジャイト・パラゴナイト）のK-Ar年代測定（炎光分析・希ガス同位体組成分析），３）薄片上の微細ジルコンのU-Pb年代測定（SIMS分析）に取り組みました．そして，得られたデータを鉱物の組織・組成累帯構造や酸素同位体組成と合わせて評価し，高圧変成岩中の鉱物共生の非平衡問題や鉱物アイソクロン年代の問題点などを議論しました．その研究成果はプログラムの最後に英語で口頭発表しました．

上から写真１　ディスカッション風景．写真２　クリーンラボでの実験風景．

三朝での生活

センター及び宿泊所は，情緒豊かな三朝温泉街と倉吉市街地との間に位置し，周囲はのんびりとした田園と山に囲まれた風光明媚な土地です．最も近いスーパーまで自転車で15分ほどかかり，食品の買出しなどで多少不便ではありますが，倉吉市街地まで出ればたくさんの店がありますし，プログラム後半になると参加者が共同で車を借りましたので，それほど苦労はありませんでした．国外からの参加者は，サイクリングや散歩などをして日本の田園風景を楽しんでいたようです．

宿泊所は，各部屋にキッチンやバス・トイレがついており，２～３人でルームシェアを行いました．私のルームメイトはアメリカ人女性で，お互いの国の料理を作り合ったり，文化を語り合ったりして交流を深めました．共同風呂は100%天然のラジウム温泉であり，これも日々の楽しみとなりました．また，よくみんなでリビングに集まり，音楽をかけて踊ったり，それぞれの母国や大学，旅行の写真などを見せ合ったりして過ごしました．

課外活動

研究活動以外でも，三朝での生活はエキサイティングなものでした．

センターが主催する様々な課外活動に参加しました．ランニングやソフトバレー，バドミントンなどのクラブ活動のほかに，三徳山三佛寺（国宝投入堂）へ登ったり，精進料理を食べたり，他にも大山登山や海岸でのバーベキュー，ビアーガーデンなどたくさんの課外活動がありました．その中でも特に印象的だったのはキュリー祭です．三朝のラジウム温泉にちなんで名付けられたこの祭りの目玉は盆踊りです．三朝の老若男女がさまざまな趣向を凝らして，温泉街を踊りながら練り歩くというもので，プログラムの参加者も岡山大学のメンバーとして，浴衣を着て踊り，見事優勝を勝ち取りました．

そのほかにも参加者や大学院生だけで，鳥取砂丘に行ったり，美しい日本海で泳いだり，サーフィン，パーティ，ドライブ，広島旅行，京都旅行など，休日を楽しみました．

院生コーナー

左から写真3　宮島にて．休日を利用した広島旅行．写真4 farewell partyの様子．参加者が歌と踊りを披露．

プログラムを終えて

このプログラムは，研究室に閉じこもりがちになる理系大学院生にとって，自分の研究及び研究生活を見直す，非常に良い経験だと思います．私自身，他大学の研究スタイルを見て，自分の研究室にこもってばかりでは気がつかなかった改善すべき点や，勉強しておかなければなければならないところを知りました．

6週間という長い期間の間，外国人研究者と共に暮らし，共に研究するという貴重な経験を，国内にいながら出来るということはまれだと思います．他のインターン学生と暮らしていると，その勤勉さとやる気にとても刺激を受けます．また，国外からの参加者の英語能力の高さには驚かされました．あまりの流暢さに，初めは全員ネイティブスピーカーではないかと思ったくらいです．彼らとは今でもメールでやり取りをしています．三朝で知り，出会ったすべてのことは，一生の財産になると思います．学部生，大学院生の方々は，機会があればぜひこのインターンプログラムに挑戦してみることをおすすめします．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の4名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

tsuji@sci.ehime-u.ac.jp　辻　智大（愛媛大）
horidasu@ms.kagoshima-u.ac.jp　中谷大輔（鹿児島大）
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp　東郷徹宏（広島大）
v.fonda@akane.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）

会員情報の変更がネットでOK！

平素は学会ホームページのご活用ありがとうございます．昨年9月に新装開店し，やや作業が遅れていました会員情報のオンライン編集機能が使用可能となりました．ホームページ（http://www.geosociety.jp）からアクセスして頂き，**会員ページにログインしますと住所，メールアドレス，専門部会などなど皆様ご自身の登録情報の確認と更新ができます．**大変便利です．なお従来の郵送やメールでの変更サービスも継続しております．どうぞご利用下さい．なおセキュリティのためにもログインパスワードの管理（定期変更など）をどうぞよろしくお願いいたします．

今後ますます使いやすい環境にしていく予定ですが，会員皆様のご意見，ご要望をお待ちしております．

2008年8月
日本地質学会広報委員会

ここから変更できます！

学　会　記　事

2008年度　第６回理事会議事録

2008年11月25日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2008年11月８日（土）
13：30～18：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，佃副会長，高木副会長，渡部常務理事・井龍・石渡（３時まで）・上砂・倉本・坂口・久田・藤林・向山（各理事），橋辺（事務局）
欠席者：藤本副常務理事・岩森・齋藤・矢島，委任なし：小嶋

＊成立員数（12/17）に対し，出席者13名，委任状４名，欠席者１名で，理事会は成立．

◯報告

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
・ゼオライト学会より，国際会議「ZMPC2009（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009）」（2009年８月３日～８月７日，早稲田大学）の共催依頼を承諾．
・松岡　篤（新潟大学理学部地質科学科）会員より，琉球大学熱帯生物圏研究センター共同利用研究会「有殻原生生物プランクトン研究はどこに向かうのか」（2008年11月28日－29）の後援依頼を承諾．
・加藤碩一会員より，石専門の写真家須田郡司氏の「世界石巡礼」（2009年４月開始）を後援する団体となるかの伺いについて：後援依頼を須田氏から学会宛に提出いただくよう，加藤会員に依頼することとした．
＊その後，本人から後援依頼が正式に届き，メールで検討の結果，後援を承諾した．
・大学評価・学位授与機構から依頼のあった専門委員について，先月の理事会で選出の５名の候補者に依頼したところ，３名から辞退の申し入れがあり，２名の方を推薦した．
・第21期学術会議会長：金澤一郎，副会長：大垣眞一郎・鈴村興太郎・唐木英明
・とやま賞へは，石崎泰男会員（富山大学）を推薦することとし，本人の承諾を得た．
・アイソトープ協会から第46回アイソトープ・放射線研究発表会の共催依頼があり，例年通り承諾．運営委員１名の推薦については前年に続いて，産総研の小笠原正継会員に依頼することとし，その後，本人の了解を得た．
・国立情報学研究所（NII）と科学技術振興機構（JST）それぞれのNII-ELSとJ-STAGEの運営に関して，両法人の連携・協力によりジャヤーナルアーカイブ推進する目的で覚書を締結した．これによって，重複した電子化を行わないなどの便宜が図られることになる．
・財）交流協会から日台科学技術交流事業案内として経費助成（若手研究者交流，セミナー・シンポジウム，共同研究）の募集があった（〆切12/25）．Geo-flash，News誌に掲載．

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者　３名（正３）
（正３）菅家奈未　吉川幸叙　北村栄一
２）退会者（正１名）内田良始
３）逝去者（正１名）本田　裕（10/13）
井龍理事が追悼文を手配することとした．なお，追悼文の掲載スペースは基本的に同一で，名誉会員のみ写真の扱いが異なることを確認した．
４）10月末日会員数
賛助33，名誉76，正4,331（うち院245），準28，合計4,468（前年同期比－107）
５）石渡理事より，故都城名誉会員追悼記事のインド地質学会への英文版の転載の報告．

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合法人化準備委員会（高木委員）
第４回準備会を10月24日に開催し，準備会として定款案が承認された．第５回準備会（最終の予定）は11月21日（金）に実施．地質学会理事会からは新法人の設立時社員として石渡理事と高木副会長が捺印．11月13日の拡大評議員会には，学会から正副会長のいずれかが必ず出席することとした．

会計関係（担当理事-向山）
・会計管理システム老朽化に伴い，新たな公益法人会計システム（大塚商会）に交換した．
内容は，ソフトウエア＋設置・指導料等で70万円相当，ハードウエア十数万円相当で，５千円程度/月のリースとなる．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・地質学雑誌表紙の最終デザイン候補．

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・岡山大会の市民講演会「大地から考える地球環境―地質と生物・農業の深い関係―」の科研費を申請した．開催場所は山陽新聞サン太ホールで，科研費申請を総経費80万円程度のベースで行った．
講師　波田善夫（岡山理科大学学長）「地質と生き物と人々の生活―ヨーロッパそして岡山の風景―（仮題）」
武田　弘（東京大学名誉教授）「おいしいワインのできる畑の地球環境（仮題）」
・岡山大会での地質情報展は，岡山駅近傍のディジタルミュージアムを会場とする．ジオパーク関連企画等を学会主催で実施する場合には，情報展会場のホールを使用する方向で検討を続けることとした．

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
・日－蒙の国際協定締結および交流について
両会長の交流のキックオフとして，2009年のモンゴル地質学会記念事業も見越して，協定締結の挨拶を日本側から送付することとした．
・International Groundwater Symposium 2009（Thailand/Bangkok）の件：来年２月開催のため，Geo flash等で会員にお知らせすることとした．

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通り（11月７日現在）．
114-11月号：論説３　短報１　報告１（50ページ，校正中）
114-12月号：論説２　ほか未定
2008年度投稿論文総数110編［論説73（和文67　欧文６），総説19（和文19）短報９（和文６　欧文３），討論２　報告２　ノート４］口絵７（和文４　欧文２）
投稿数昨年比　＋47　査読中89編　受理済み５編（うち　論説２　特集号３）
・投稿規程一部修正．
・115巻１号掲載論文より，英語要旨のネイティブチェック開始．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・編集状況報告．

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・地方地質誌「関東地方」が刊行（10/30）された．

4．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
国際地学オリンピック日本委員会（久田）
・NPO法人の申請を準備し，現在縦覧中．来年２月中旬に設立を見込み進めている．この法人はJSTの補助金申請の為の条件となるもの．

5．各委員会等
ジオパーク支援委員会（担当理事-佃，委員長-天野）
支援委員会によるジオパークのパンフレットを作成中．素案を回覧した．

・日本ジオパーク委員会（高木委員）
第３回委員会（10月20日）に，ユネスコに申請する世界ジオパークネットワーク（GGN）３件（洞爺湖有珠山・糸魚川・島原半島）を決定した．
12月８日の第４回委員会で日本ジオパークネットワーク登録地域（申請中２件，GGNに漏れた２件が対象）を決定．2009年２月20日に日本ジオパークネットワークの認証式を実施．

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部）
・第５回委員会を開催（11/04）．
定款認証のための確定と法人登記申請手続きについて検討．
・11/6　公証役場に出向き　定款認証のための相談をする．13日に返事をするとのこと．
この結果について対応を行い，理事会で確認後，臨時総会資料とすることとした．
・事務局執務環境の改善に向けて，副会長以下のWGが事務局と検討を進め，年度内に可能な対応を行うこととした．具体的には，不要物品の整理と会議スペースの確保，勤務環境の安全衛生のためのパーティション・控えスペースの確保，その他である．

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
・第１号事件，第２号事件の除名申請人より，委員会から発出した通知書の回答が９月10日，９月23日付けであり，法務委員会を10月15日に開催した．
・次回法務委員会を11月17日に開催する予定である．上記，除名申請案件についての方向性を決定し，さらに法人規則の検討を行う予定．

名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）
・推薦委員会委員のうち，階層別委員と理事会委員の選出
大学，小中高，官公庁，会社，理事　各１名（←審議事項へ）
その他７名の支部長

6．地質の日委員会（藤林委員）
・選定中のロゴについては，11月末に決定・通知予定．
・『地質ニュース』の特集号は２号のうち１号分はすでに原稿が集まり編集中．
・地学教育・普及に関係するが，新潟で「地域の自然をと科学教育の素材」のシンポ（理科教育）を３月16日に開催するので，地震関係の講演を構造部会からお願いしたい．

○審議事項
1．法人定款認証および申請登記に関する件
・登記時資料とする定款最終案での変更事項について説明承認．11月13日以降に公証人役場から回答をいただいて最終資料を作成し，理事会で承認後，臨時総会資料とする．12月１日に登記続きを予定する．
・検討事項であった社員数については，これまでの運営通り会員数の25分の１とし，その内容は地方支部枠合計100名，全国枠70名とすることとした．定款で目的と事業を同一の条文に記述することを承認した．

2．臨時総会について，懇親会について
・出欠の予備アンケートでの現在までの出席予定者20名程度．
・臨時総会資料の最終確認と，来年度事業計画を評議いただくために，総会会場で12月定例評議員会を行うこととし，至急評議員に通知することとした．

3．来年度事業方針案（会長），事業計画案（各部会担当理事），予算計画概要案（会計担当理事）の確認と評議員会資料化．

4．12月評議員会を臨時総会で実施する際の議題について
以下の内容として，１時間程度を予定することとした．
1）来年度事業方針案，来年度事業計画案，予算計画案
2）総会資料における，９月評議員会以降の変更内容の説明と了承．
3）その他

5．来年度以降の事務局体制について
本年度末の橋辺事務局長の定年ならびに法人化業務の効率的実施のための事務局雇用体制の再検討を担当理事（常務・副常務・運営財政担当・会見担当各理事）が検討を行った結果を報告し，以下の通り理事会が決定した．
・いわゆる外部対応等を主務とする事務局長は来年度から置かない．
・事務局を掌握責任を持つ理事会担当理事を置き，決裁権の一部を事務局の長（後述）に与えて日々の管理をお願いする．
・事務局員は事務局員→事務局主任→事務長の事務職キャリアパスで昇格させる．
・併せて，来年度から一定期間，事務局管理の業務を担う参与ポストを置き，単年度契約で招聘する．
・橋辺さんには，年間契約でこのポストに招聘して事務局員の指導管理を引き続きお願いする．
・今後の事務局体制の安定性確保に向けて，１名の新人採用を将来的に目指すこととし，試験採用等を通じて年度内の多忙時のパート雇用等を開始する．
・将来的には２名の局員に上記パスで昇格していただき，事務局の管理を担当する職員が誕生するまでは，参与ポストに橋辺現事務局長が就いていただくことを希望する．
以上の事務局体制の再検討にあわせて，事務局業務自体の効率化も目指し，編集関連業務等を委員会や業者に移す等，実効的な案を各委員会等にお願いする．

6．その他
1）08年度最後の評議員会開催日について
2009年４月４日（予定）北とぴあ会議室予約済み．
2）名誉会員推薦委員会委員の選出
検討の結果，八尾（大学），紺谷（小中高），植村（公官庁），足立（会社），石渡（理事会）の各会員を推薦委員に選出し，本人の承諾を得たうえで依頼することとした．

2008年度　第７回理事会議事録

2009年１月26日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2008年11月30日（日）
10：00～11：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　倉本　齋藤　坂口　向山（各理事），保柳評議員会議長，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，小嶋　藤林*　矢島*，（委任なし）岩森・久田
*地学教育委員会に出席のため欠席
＊成立員数（12/17）に対し，出席者　11名，委任状　４名，欠席者　２名で，理事会は成立．

○報告その他
1．とやま賞の推薦文についての確認
2．富士山学術的看板設置調整委員会（荒牧重雄委員長）より，看板設置推進の提案書を関係機関に送付する件についての賛同要請があり，承諾することとした．
共同団体：富士学会，火山学会，地質学会，地理学会，第四紀学会，地学協会，

国際地図学会

3．地理関連学会連合よりの，「東大・空間情報科学研究センターの全国共同利用・共同研究拠点」継続申請に関する要望書提出の要請について．

地理関連学会連合としては，要望書を提出するが，各学会はそれぞれ検討してほしいとの要請があった．地質学会としては要望書提出に特段の必要性は認めないが，専門部会に回送して，部会ごとの必要に応じて検討と対応をしてもらうこととした．

○審議事項

1．総会議案の確認および議事進行について打ち合わせた．

2．評議員会の評議事項の確認と議事進行について，保柳議長と打ち合わせた．

3．その他，以下について検討した．

1）一般社団法人設立総会等について．

2）法人化後の移行スケジュール，公益認定申請等について．

2008年度　第8回理事会議事録

2009年1月10日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2008年12月13日（土）
13：00～17：00

場　所：地質学会事務所

出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長（早退），渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　倉本　齋藤　坂口　久田　向山　矢島（各理事），藤林（教科「理科」関連学会協議会［CSERS］シンポジウムのため遅れて出席）橋辺（事務局）

欠席者：岩森　小嶋

＊成立員数（12/17）に対し，出席者　15名，委任状　2名，欠席者0名で，理事会は成立．

○報告

1．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

1．地理関連学会連合よりの，「東大・空間情報科学研究センターの全国共同利用・共同研究拠点」継続申請に関する要望書提出の要請については，前回の理事会において，各専門部会における必要性に応じて検討していただくことを依頼することになっていたが，11月30日が提出の締め切りであったので，今後，同様事例があった場合の，専門部会としての対応を要請する文書をつけて，参考文書として専門部会長に回覧した．

2．天野会員から，シンポジウム「茨城県北地域振興の新たな可能性をさぐる－茨城県北ジオパークをめざして－」主催：茨城大学の後援依頼があり，承諾した．

3．日本ジオパーク委員会から，来年2月20日の記念式典の後援依頼があり，承諾予定．

4．学術会議「学協会の機能強化方策検討分科会」から，公益法人への対応などについてアンケート調査がきた．回答締切12/26→藤本理事対応

5．連合から，キャリアパス支援小委員会への委員を推薦依頼→佐々木会員の意向確認し，推薦した．

6．出版著作権協議会から，平成18年度分配複写使用料は34,000円に修正連絡があった．

なお，同協議会は，2009年1月より，有限責任中間法人出版著作権協議会となる．

7．藤原科学財団「藤原賞」の公募．HP，Newsに掲載．締切1/31

8．三菱財団自然科学研究助成の公募．HP，Newsに掲載．公募期間1/5-2/2

9．消防庁より消防防災科学技術研究推進制度の公募．HP，Newsに掲載．公募期間　12/1-1/30

10．神奈川県博から，特別展「箱根火山」の事業報告．日刊工業新聞から，2008土壌・地下水環境展の事業報告．また，計測自動制御学会から第34回シンポジウム協賛のお礼があった．

会員関係（担当理事-向山）

1）入会者　3名（正2，院割1）
（正3）丸山祐司　松本亜希子　松下　新

2）退会者（正1名）積田清之

3）逝去者　4名（名誉1，正3）
藤田和夫（12/1）（藤田崇会員が追悼文を準備）
内藤源太朗（9/4）遠藤勝寿（11/30）吉村尚久（12/5）

4）11月末日会員数
賛助33，名誉76，正4,333（うち院246），準28，合計4,470（前年同期比－105）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・連合法人化準備委員会（高木委員）
3月に公益認定申請を目指して作業中
1月からの連合の個人会員登録について，地質学会としては，高木副会長より会員登録の呼び掛け文を発信するとともに，専門部会長へも連絡して対応協議を依頼．
連合ジャーナル運営についての検討状況
当面は二つの道：連合として既存ジャーナルへの参画．各学協会運営ジャーナルへ連合名を入れるよう要請．地質学会としては，IARの編集などの独自性の確保を要望．

会計関係（担当理事-向山）

・会費請求書の送付，来週早々には届く予定．

・秋田大会の収支概算は黒字となった．
概算で黒字額は約200万円であり，想定以上の参加者人数や自助努力が原因
日本鉱物科学会の情報と合わせて同時開催の効果の検証が必要．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）

・新法人のHPを立ち上げた（任意団体HPでリンク）．今後充実を図る．

2．学術研究部会（部会長-石渡）

行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）

・岡山大会見学旅行について
シンポジウムに合わせた見学旅行の企画とそれ以外の通常の見学旅行の2本立てとする．
見学旅行の冊子版については理事会の承諾を得たうえで発行する．

・シンポジウム及び見学旅行とのセット企画の募集締め切りは12/19日締切．

・地質情報展（地質学会から支援委員として斎藤理事）
ジオパークのワークショップ，学校教育関係の発表会を各一日ずつ検討中．

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）

・モンゴル地質学会との交流協定について
2009年10月にモンゴル地質事業70周年記念行事があるので，それに合わせて日本地質学会会長（または代理）がモンゴルを訪問し，国際交流の実を挙げた上で正式に現地で交流協定にサインするのが妥当だと考える．地質見学などを兼ねて訪問すれば特に有益と思う．今後は，このような心づもりで，進めたいと考えている．モンゴル小委員会の高橋さんと，副会長のゲレル氏との間で，この件についてのやり取りをした．

・交流のあるアジアの地質学会に対して，クリスマスカードを発送する．

3．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）

・今月の編集状況は以下の通りです（12月12日現在）．
114-12月号：論説3　口絵1（50P　校正中）

・2008年度投稿論文総数117編［論説76（和文70　欧文6），総説19（和文19）短報11（和文6　欧文5），討論2　報告3ノート5］口絵8（和文5　欧文3）
投稿数昨年比　＋43　査読中89編　受理済み14編（うち　論説5　短報1　口絵4　特集号4）

・投稿規定の改正

1）「投稿規定の外国語原稿読み替え」について

日本の学会で一般に使用されている言語（英語）に限定するため，投稿規定中に「外国語」とされているものをすべて「英語」と読み替える．

2）討論・討論の回答の英語原稿

Ⅲ．1．論説・総説・短報・報告・口絵の原稿は日本の学界で一般に用いられる外国語（英語）でもよい．

↓

＜修正追加＞

Ⅲ．英語原稿

1．論説・総説・短報・報告・口絵の原稿は日本の学界で一般に用いられる外国語（英語）でもよい．当該原稿に対する討論および討論に対する回答などは，当該原稿が英語で掲載されている場合は，英語で作成する．

・査読結果に対する著者からの抗議文について（→審議事項へ）（別紙参照　8-9）

・年に１～２回，Face-to-face委員会の開催と出席者への旅費の援助について（→審議事項へ）

・保証書項目追加についての答申

編集委員長の諮問に対する上砂法務委員長からの答申を承認．

・地学教育に関して新しいカテゴリーの新設を検討したが，従来のカテゴリーでも対応可能ということで，編集委員会としては新設しないこととした．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

・編集状況報告（別紙参照　10）

18-1まで順調に編集作業が進んでいるが，一般投稿が若干減少傾向．

・竹内事務局長から，アイランドアークの編集団体等について検討されるときは，検討当初からW-B社を加える旨の申し入れが，W-B社からあったとの連絡があった．

・著作権について契約変更の希望がBW社からあり，正式文書が来れば検討．

・IAR賞選考中．

・Google Earthの使用について，規定を検討中．

企画出版委員会（担当理事-藤林）

・屋久島探検マップは，年度内の印刷になるよう努力中．

12月中旬に地学教育委員会側の修正意見を付けて，現地作業側へもどす．

図や写真などの著作権については，文書交換を行う予定．

4．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）

地学教育委員会（委員長-阿部国広）

・ウェブページが立ち上げ準備中．

・指導要領変更などの影響もあり，地学教員増加が課題．

・情報化に強い教員の会員などに協力要請．

地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（矢島）

・小学校教員向けの副読本作成中．

国際地学オリンピック日本委員会（久田）

・第２回国際地学オリンピックの報告

・12月10日，第３回国際地学オリンピック台湾大会（09年９月）の参加者の応募が締め切られた．応募者は全国83校686名で，前回のほぼ２倍．12月21日に全国各地の大学・高校で一斉に一次試験（筆記試験）が行われ，２月に結果発表．３月29日（東京大学の予定）に２次試験実施（実技試験・面接）．なお，今回の選抜試験は，第１回日本地学オリンピック大会を兼ねる．（参考　生物オリンピックは2400名応募）

・近い将来に日本で国際地学オリンピックの開催を予定している．これに対するJSTからの補助金は，参加国数および参加者数が今の状態では望めず，自助努力となる．

5．各委員会等

ジオパーク支援委員会（担当理事-佃，委員長-天野）

・ジオパークのパンフレットを作成中．

・日本ジオパーク委員会（高木委員）

12月８日の第４回委員会で日本ジオパークネットワーク登録の７地域を決定．2009年２月20日設立予定の日本ジオパークネットワークへの加盟が認められ，認証式を実施．

アポイ岳，洞爺湖有珠山，糸魚川，南アルプス（中央構造線），山陰海岸，室戸，島原半島

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部）

・第６回委員会４役会議と合同で開催（12/13）．

6．地質の日委員会（藤林委員）

「地質の日」（５月10日）のロゴが決定．作者は彦根　正さん（東京都）．Geology Dayの「G」をベースに，重なる「地層」を組み合わせ，「地質の日」の広がりを表現．全国の「地質の日」に関連した行事，印刷物に使用可．

○審議事項

1．著作権利用規定に関して（坂口理事）

写真・図・イラストなどの利用や取扱いについてのルール作りの必要性が指摘．地質学会が著作権を持つ出版物は地質学雑誌，年会の講演要旨，巡検案内書のみであり，ニュース誌の記事は基本的に著作権譲渡を受けていない．

これらに対する今後の対応として，以下のように検討した．

著作権は著者に残して地質学会として限定的に利用する書式を作成．

学会の企画によって著作権譲渡を受ける書式を作成．

ニュース誌には，写真や図などを著作権が著者にある旨を記す．

2．編集関係

1）査読結果に対する著者からの抗議文について

久田編集長および高木副会長から経緯の説明を受けた．

査読結果を尊重しつつも，理事会としては，掲載する方向で検討することとした．

2）Face-to-face委員会の開催と出席者への旅費の援助について

地質学雑誌編集委員会は，全ての会議はMLを利用して行っているが，編集委員同士の意思の疎通のためには，Face-to-faceの委員会を開催することも重要であると考えて編集委員会内で検討した．

Face-to-face委員会の開催について：賛成：15名，（どちらかといえば）反対：１名

編集委員会からの提案

(1) とりあえず2009年の総会時にFace-to-faceの編集委員会を開催する．それが有意義であれば，年会時にも開催を考える．

(2) 編集委員会のためだけに参加する委員には旅費の援助をする．

→理事会としては，地質学雑誌の編集委員会のみ旅費支給という扱いはできない．編集委員会で再度検討していただくこととした．

3．法人関連事項

1）今後のスケジュール

新法人の理事会（会員・事業・財産の受け皿を整える）

任意団体の解散総会（法人に会員・事業・財産を引き継ぎ，解散を決議）

法人理事会（受け入れを確認）

法人総会（理事会の決定を了承）

2）予定としては公益認定を受けてから上記の解散と法人への引継ぎを行うつもりだったが，以下のような観点から，引継ぎを早めるほうが望ましい状況であると考える．

・法人になって参画できる事業に早く参画したい．

例えば，教員免許更新講習，最短では２月半ばまでに申請の必要性（法人のみ申請資格）があるのと，公益認定申請時の書類に法人の実績があったほうがよい

・税金は非営利法人であれば公益認定の有無は大きく影響しないもよう

3）今年度末に法人への引き継ぎが可能かどうか，早急に検討を開始する．

スケジュールは以下の予定

３月の法人理事会ですべての規定などを整える．

4月上旬で解散
5月の総会は新法人としての総会
4）準備活動
・事業計画や予算案の提出，規約類の整備などのために，支部や専門部会，委員会などに協力を依頼する．
・現状の引当金などについて整理し，その使途や活用方法について検討する．
基本財産化（例えば，現在の基本財産＋引当金から相当額を充当）
残りの引当金の使用方法を考え，初年度の事業計画と予算案に反映させる．
事務所内の整備，インフラ整備．
会員カード　受付や支払，CPDに活用
他学会の業務の一部委託．

4．その他
1）臨時総会議事録の確認をし，12月号に掲載することとした．
2）4月以降の事務局体制についての検討
・橋辺さんには参与として契約をして引き続き勤務していただきたい．
待遇などは公務員の給与規定＋学会の財務状況．
・正規職員2名体制では不足なので，4月以降1名補充する．当面は，非常勤の形で雇用．
・新たに事務局員の中から事務主任を設け，事務局の業務管理をしてもらう．

2008年度　第9回理事会議事録

2009年1月26日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年1月10日（土）
13：00～17：00
場　所：地質学会事務所
出席者：高木副会長，佃副会長，渡部常務理事-藤本副常務理事-井龍　石渡　岩森　上砂　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島（各理事），橋辺（事務局）
欠席者：宮下会長，倉本　小嶋

＊成立員数（12/17）に対し，出席者14名，委任状　2名，欠席者　1名で，理事会は成立．

○報告
1．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
連合のキャリアパス支援委員会委員の推薦：佐々木和彦会員に了解していただき，年末に承認のうえ推薦した．
会員関係（担当理事-向山）
1）入会者　4名（正1，準3）
（正）寺延興三　（準）下嶋健太　朴大光　右近さよ
2）退会者（正1名）佐藤二郎
3）逝去者　1名（正）金子史郎（2008/3/14）林　行敏（2008/6/16）堀江正治（2008/10or11）
4）12月末日会員数
賛助33，名誉75，正4,326（うち院246），準28，合計4,462（前年同期比－109）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合法人化準備委員会（高木委員）
・News誌1月号に連合の個人会員登録の記事を掲載．20日のgeo-Flashにも広報予定．
・連合の第1回社員総会および整備委員会（法人化準備会から改称）が12日に開催．

2．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
岡山大会準備状況について
・準備委員会は岡山大会の運営企画等について，業者に一部任せることを予定し，すでに業者との間で打ち合わせを行っている．学会へは15日に業者が説明と打ち合わせに来る予定．
・理事会は，岡山大会準備委員会から提案の，運営企画の一部を業者委託する方針を了承．大会事業収支については大会ごとの収支相殺が原則であり，不足が生じた場合は学会開催の引当金を用いて調整をしている．今後は会員の少ない支部等での開催を容易にするためにも，開催のインフラベース部分については学会として，財政的な下支えを行っていく方針とした．なお，方針は，今後全ての大会事業について適用する方向で検討することとした．なお，岡山大会の業者委託の収支見通しなどについては，行事担当理事が業者側と面談し，以下の点を詰めることとした．
1）業者のインセンティブ部分（広告収入など），旅行業者などとの再委託の契約内容など．
2）業者決定に際しては業者の概要なども調べた上で，相見積りをとる．
3）受注業者側の事情により，業務の実施が困難となるようなリスクも想定し，対応策を提示させる．
・シンポジウム　8件
「坂野昇平追悼シンポジウム」世話人：平島崇男・榎並正樹
「都城秋穂追悼シンポジウム」世話人：丸山茂徳・磯崎行雄（見学旅行企画）
「高Mg安山岩とアダカイト：その起源，テクトニクス，大陸地殻形成における役割」世話人：巽　好幸・田村芳彦ほか（見学旅行を企画）
「日本列島構造発達史」世話人：磯崎行雄・丸山茂徳（見学旅行を企画）
「3次元地質モデルの構築手法と利活用」世話人：升本眞二・木村克己・根本達也
・古宇田亮一
「中国地方における第三系の諸問題―新たな地平をめざして―」世話人：沢田順弘・酒井哲弥・入月俊明
「科学を文化に―学校教育・地学分野のこれから―」世話人：藤林紀枝・芝川明義
・三次徳二・矢島道子・七山　太
「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ1と2の成果（総括）」世話人：木下正高・芦寿一郎・木村　学・斉藤実篤・山口飛鳥・氏家恒太郎・坂口有人（見学旅行企画）
・見学旅行
野外巡検説明会を公式行事として行う．ポスターボードを用いた野外巡検の紹介．成功すれば定番化．
1）地質学の定番の学習・教育スタイルの重要性を会員に再認識してもらう
2）地域地質の情報が会員に共有されること
3）それぞれの巡検企画が注目を浴びることによって良いものになること

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
・交流協定を結んだ韓国，タイおよび中国，フィリッピンの地質学会に対し，ニューイヤーカードを送った．
・韓国地質学会から，石渡担当理事あてにニューイヤーカードが届いた．
学会宛に受領した海外からのカードなどは，今後HPに掲載することとした．

3．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通りです（12月12日現在）．
114-12月号：論説3　口絵1（51p. 12/26発送）
115-01月号：論説3　口絵1（50p. 校正中，新表紙も合わせて校正中）
・2008年度投稿論文総数（2008年12月25日）121編［論説79（和文73　欧文6），総説19（和文19）短報12（和文7　欧文5），討論2　報告3　ノート5］口絵9（和文6　欧文3）
・投稿数昨年比　＋40　査読中77編　受理済み10編（うち　論説3　短報1　口絵2特集号4）
・編集規則（編集規約・投稿規定等）を一本化するため現在作業中
1月中を目処に編集委員会で検討，規則の下に細則類をいくつか定める予定
・編集委員の交替　角和善隆→七山　太（堆積部会選出）

・特別号原稿査読への抗議文への対応について
前回の理事会決定に基づき，改めて原稿や査読過程について検討を行った結果の報告を正・副編集委員長から受けた．編集委員会としては当初の査読結果を見直し，引き続き原稿修正を要求し，通常の投稿論文の査読作業を続行する方向で進める方針であり．理事会もそれを了承した．著者からの抗議文については，編集委員会に対応を一任した．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・編集状況報告（別紙参照　）
2008年度は620pの予定
特集号が多く，一般受理原稿の掲載までの時間が長いため，一般投稿が減少傾向，投稿呼びかけの必要性がある．
Journal　HP変更
編集事故対応として，写真や図の解像度，文字指定等についてW-B社との間で新たなスタイルを検討．

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・国立公園地質リーフレット：「屋久島」の次の候補として「上高地」を打診したが，来年度の出版は不可能という回答であった．現在行っている環境解析の成果を盛り込んで平成22-23年出版の可能性を模索する予定．ジオパーク申請箇所で検討を進めるなど，今後その他の候補地に打診する予定．
・「地学読本」：原田会員により３月出版の予定で順調に進行中．
・地方地質誌
・地質環境の長期安定性に関するリーフレットについては，１月中に原稿完成を予定．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
・岡山大会でシンポジウム「科学を文化に－学校教育・地学分野のこれから－」を開催する予定．新学習指導要領などの話がメインになる予定，シンポジウムのタイトルについては，もう少し検討する．
・教員免許更新講習
藤林理事が窓口となって文科省へ問い合わせ中であり，１月中に回答が来る予定，講習への参加のあり方も含めて引き続き検討．

地学教育委員会（委員長-阿部国広）
・高校教育指導要領改訂へのパブリックコメント，１月21日締め切りで現在とりまとめ中．
提出コメントはHPやニュース誌で報告
・地学教育MLの拡充化中
・屋久島探検マップは１月末には原稿完成予定．
地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（矢島）
・高校教育指導要領改訂へのパブリックコメント作成中
・小中学校理科内容検討中
国際地学オリンピック日本委員会（久田）
12月21日に１次選抜が行われた．682名と予想を大幅に上回る参加者数．

５．各委員会等
支部長連絡会議（担当理事-高木）
支部規約の整備について，法人化に伴う理事会モデル案の再検討を行う．

JABEE委員会（委員長-天野）
・日本技術者認定機構においても，法人化の検討が進み４月に一般社団法人として登記の予定．現在の会員（80学協会）がそのまま移行する予定．法人化後も会費等の基本的なことは変更しない．設立時社員は，現公益法人に限った．
公益認定の申請については，特段のメリットがあるかどうか今の時点では判断できないので現時点では積極的に進める，との説明であった（12/25事務局長会議）．
法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部）
・税金関係
１月18日に向山理事．橋辺事務局長が神田税務署で質問
税務署も手探りの状況で学会としての大きな方針変更の必要はなし
学会の事業の中で指定33業種にはいるものがあれば，その収益は課税対象
都税については，別途行う．
・事業計画と引当金などの処理を２月中に議論する．
・法人の各種規則類の整備が喫緊の課題である．

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
・15日に委員会を開催し，除名申請，地質学会３規則，国立公園，天然記念物等の調査について検討する予定．

名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）
・会長，副会長，評議員，専門部会長に対し，推薦依頼を行った．推薦の締め切りは２月13日とする．審査を行い，４月の評議会で決定．リストを回覧した．

６．地質の日委員会（藤林委員）
・地質学会員にニュース誌などで地質の日の活動に積極的に関わるよう呼びかける．
・地質の日事業推進委員会の活動
ポスター作成．
昨年の活動をまとめて掲載した地質ニュース（２号分）を増刷配布．原稿料は活動費に．
文科省が地質の日を認知するよう働きかけ中．

７．学術会議関連報告（佃副会長）
・第21期の連携会員，分科会なども決まった．
・IUGSの分科会　12月に会議実施．斎藤靖二氏が継続して分科会委員長，佃副会長が幹事，その下の各種委員会のメンバーを選考中．

○審議事項
１．法人規約類
１）支部規約モデル案の再検討と支部のあり方について
各担当理事はモデル案が法人法や定款にあっているかどうかを確認する．
会計や事業計画などについて見直したうえで，全支部に共通の支部規約モデルを作る．
２）その他
担当理事は規約の整備作業を急ぐこと．

２．その他
１）査読結果に対する著者からの抗議文への対応
編集委員会報告事項に記載．

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

日本地質学会編集 日本地方地質誌 ＜全8巻，函入上製本＞

『日本地方地質誌』刊行委員会　刊行委員長：加藤碩一　副刊行委員長：高橋正樹

第３回配本　３．近畿地方　472頁，口絵８頁（３月上旬刊行）

編集委員長：八尾　昭　　副編集委員長：吉川周作　　編集幹事：奥平敬元・三田村宗樹
編集委員：岡田篤正・寒川　旭・田結庄良昭・久富邦彦・古山勝彦・宮田隆夫・武蔵野　実

定価23,100円（税込）を会員特別割引価格20,500円（税・送料込）

日本地質学会会員の皆様に，日本地方地質誌を特別割引価格で販売をいたします．お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会「日本地方地質誌」刊行委員会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店

［問い合せ先］〒162-8707　東京都新宿区新小川町6-29
株式会社 朝倉書店　編集部：千葉　Tel.03-3260-1967
［お申し込み］本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

申　込　み　書

Fax No.03-3268-1376　朝倉書店編集部　千葉　行

日本地方地質誌　５．近畿地方　　会員特価20,500円　　冊

日本地方地質誌　３．関東地方　　会員特価24,000円　　冊

日本地方地質誌　４．中部地方　　会員特価22,500円　　冊

［第４回配本］　６．中国地方　（2009年秋刊行予定）

以下続巻：続巻も刊行次第順次ご案内いたします．
１．北海道地方　２．東北地方　７．四国地方　８．九州・沖縄地方

お名前：

ご送付先：〒

ご所属：

tel.　　fax.

備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
166	30	1　　0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード 00000	

―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

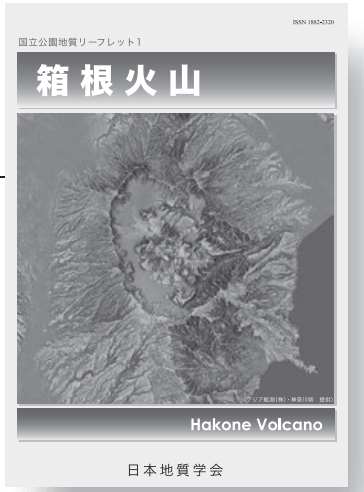
キリトリ線

裏面のりしろ②

好評発売中 !!

国立公園地質リーフレット1.

箱根火山



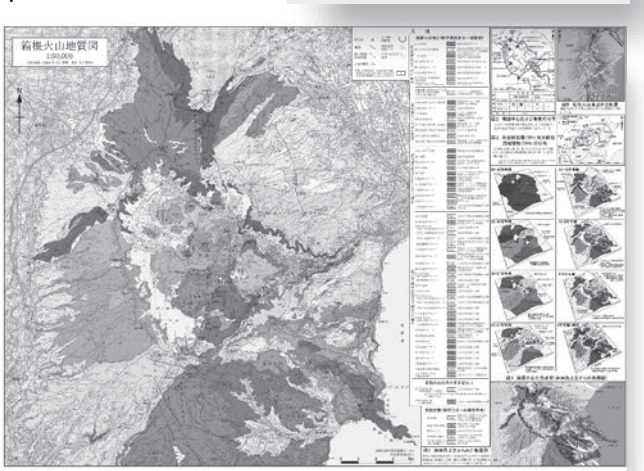
日本地質学会国立公園地質リーフレット1「箱根火山」編集委員会編

会員頒価　1000円（20部以上の場合は割引あり）

Ｂ２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．
紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています



子供版とセットでいかがですか・・・。

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

箱根火山たんけんマップ一今、生きている火山

会員頒価　300円

A2版両面フルカラー印刷.
ハンディタイプで野外での観察に最適です.
教材としてもぜひご活用下さい.

小・中学生向け地質リーフレット新登場.
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで
e-mail: main@geosociety.jp　FAX 03-5823-1156

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp